

東京都立石神井高等学校（2年目）

【校長】 内田 圭一
【生徒数】 871名
【学級数】 22学級



次の取組へ

【課題・改善】

- ・「運動やスポーツをすることは楽しい」の割合が6月と比較し、12ポイント減少した。
⇒運動やスポーツを楽しみながら、1日の運動やスポーツのする時間を増やす必要がある。
- ・授業で端末を活用する効果的場面を提示し、生徒が活用場面を自ら選択できるようにしていく。
⇒ゴール・ネット型の球技やダンス等、多種目でも汎用させ、活用事例を増やしていく。
- ・全ての生徒が思考を深め、技能が向上するような端末の効果的な活用方法を模索し、様々な活用の仕方を発見すること。

目標

- ・毎日、合計60分以上、運動やスポーツをする子供（90%以上）
- ・運動やスポーツをすることが好きな生徒（95%以上）

【成果】

- ① 全学年、全種目の平均点が向上
※体力テスト（令和3年度比）
- ② 全学年、「運動が好き」が約10ポイント増加
※体力テスト（令和3年度比）
- ③ 全学年、運動時間が約10ポイント増加
※体力テスト（令和3年度比）
- ④ 保護者・地域の「休みの日には、子供と一緒に体を動かしている」の回答が10ポイント増加
※学校評価アンケート（令和3年度比）
上記の結果から、生徒の運動能力及び運動への好意的態度が上昇したことがわかり、運動やスポーツの実施状況も増加傾向にあることがわかる。

【実態・課題】

- ・「運動・スポーツをすることが好き」の割合が比較的高いが、運動・スポーツの実施状況の割合が低い。
⇒生徒の運動・スポーツへの興味・関心を高め、運動習慣を定着できるようにする。
- ・一人1台端末を授業及び特別活動などにおいて活用しきれていない。
⇒まず、端末を活用する取組を増やすこと。次に、端末の効果的な活用を検討すること。

【取組】

- 授業（体育科）での取組
 - ・スライドによる学習内容と目標の提示
 - ・記録シートと写真の作成・活用
 - ・協働的学びでの活用
 - ・振り返りシートのデジタル化
- 特別活動におけるインクルーシブ教育での一実践
 - ・デファスリートを招いた活動で、端末を活用した大人数の意見集約を実施

【取組（詳細）】

○保健体育科における一人1台端末の活用

体育や保健の授業において、本時の目標や学習内容を事前に示すことによって、目標に正対し、見通しをもって合理的に活動できるようにした。また、生徒は、陸上やソフトボールの授業内で他者と協力し、記録の測定や写真を撮影した。その結果を比較・分析することで、課題を発見し、改善方法を論理的に考えることができるようになった。

保健の授業では、端末を活用し、グループで共同編集機能などを活用することで、授業のまとめや発表をグループごとに行い、協働的に学習することができた。

振り返りシートでは、Formsを活用し、生徒へのフィードバックをしやすいように工夫をした。

○家庭科における一人1台端末を活用した課題配信



課題として提出されたポスター

1学期の既習事項である栄養・調理の知識技能を活用し、いつもは保護者に頼ることの多いお弁当作りを行い、ポスターにまとめる課題を夏休み期間に行った。

夏バテ防止対策弁当や部活動の後のエネルギー供給弁当など各自お弁当のテーマを決めてレシピを作成して実習し、ポスターをパワーポイントで作り、提出はteamsの課題配信で行った。生徒同士は夏休み明けに共有し、互いのポスターやレシピを評価し合った。

○特別活動におけるインクルーシブ教育での一実践

デファスリートを招き、体育館において「音のない世界」を体験する活動およびグループワークを実施した。1学年280名が一堂に会する大規模な場であったため、意見集約には端末を活用し、講師のもとへ各グループの意見が時間差なく届くよう工夫した。この方法により、全員の意見を短時間で収集・整理することができ、即時性のある双方向的なやり取りが可能となった。

さらに、集約した意見の中から全体で共有すべきものをピックアップして発表させることで、多様な視点や考え方が全員に可視化され、学びの深まりにつながった。



端末を活用したグループ活動の様子